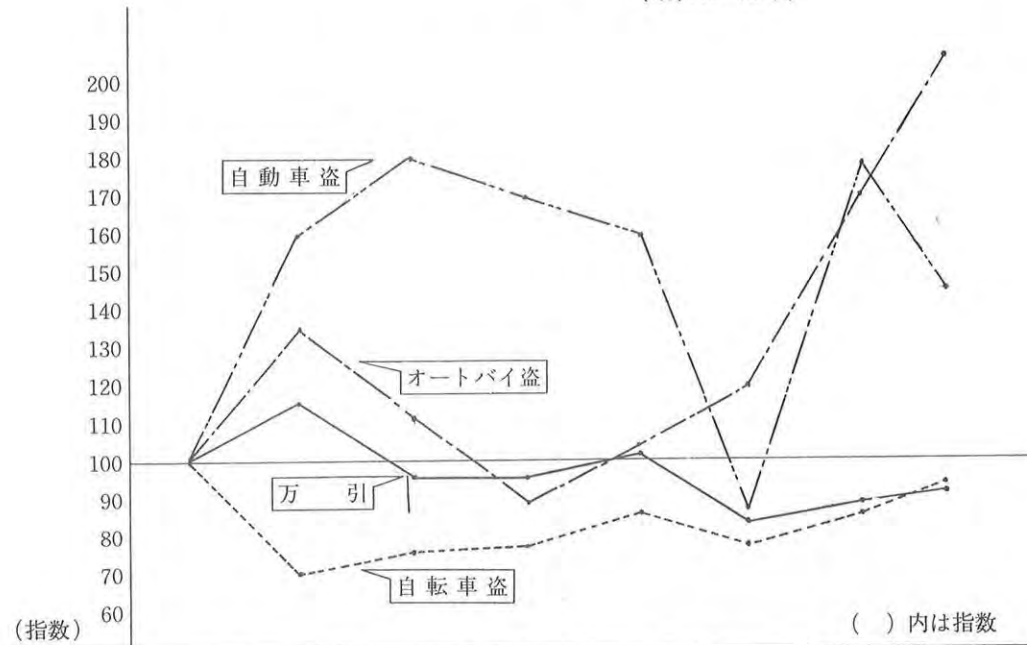


いわゆる遊び型非行で補導した少年の推移（熊本県）

(昭和49~56年)



年次	49	50	51	52	53	54	55	56	
万引	548 (100)	651 (118.8)	521 (95.1)	520 (94.9)	555 (101.3)	467 (85.2)	484 (88.3)	506 (92.3)	
乗物盗	自転車盗(人)	222 (100)	159 (71.6)	171 (77.0)	176 (79.3)	190 (85.6)	172 (77.5)	189 (85.1)	209 (94.1)
	オートバイ盗(人)	185 (100)	251 (135.7)	210 (113.5)	162 (87.6)	191 (103.2)	222 (120.0)	325 (175.7)	392 (211.9)
	自動車盗(人)	42 (100)	67 (159.5)	77 (183.3)	74 (176.2)	68 (161.9)	37 (88.1)	75 (178.6)	61 (145.2)
合計(人)	997 (100)	1,128 (113.1)	979 (98.2)	932 (93.5)	1,004 (100.7)	898 (90.1)	1,073 (107.6)	1,168 (117.2)	
刑法犯少年総数に占める割合(%)	50.7	51.5	45.8	47.6	48.5	45.4	49.6	51.5	

有台数の増加といった環境条件が密接に関連しているといわれ、さらに根本的には少年たち自身の規範意識の乏しさや耐性の弱さなど主体的な問題があると指摘されています。

また、この遊び型非行は、一面において一過性の非行でありながら、他面において集団化、累犯化しやすく、シンナー乱用や性非行等の本格的な非行に陥っていく危険性が高いものです。

特に万引については、集団性が強く、これがひいては校内暴力や暴走族等の暴力非行に発展するケースも少なくありません。

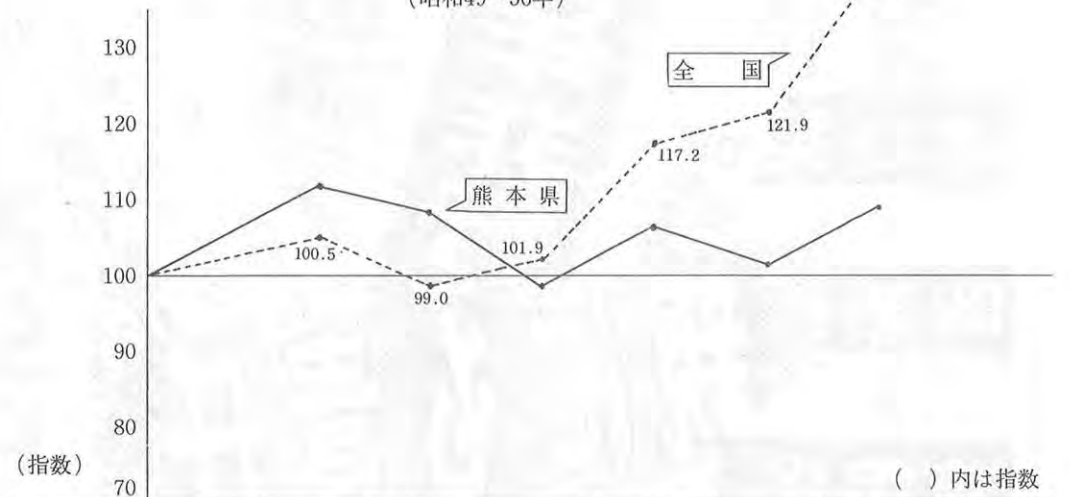
以上、遊び型非行とその背景等について簡単に申し上げてきましたが、それでは遊び型非行を抑止するためにはどうしたらよいか、最も必要な施策について述べてみましょう。

○少年に出来心を生じさせない環境づくり。

警察における少年非行防止の取組については、非行を犯した少年が、再び非行に走らないよう補導するいわゆる司法的対応と併せて、少年に出来心を生

刑法犯少年の補導状況

(昭和49~56年)



年次	49	50	51	52	53	54	55	56
検挙補導人員	1,967 (100)	2,189 (111.3)	2,137 (108.6)	1,959 (99.6)	2,070 (105.2)	1,980 (100.7)	2,162 (109.9)	2,268 (115.3)
刑法犯罪総数に占める少年の割合(%)	42.4	43.2	42.2	44.4	46.7	49.3	52.8	52.0

るかをまず御理解いただきたいと思えます。

ご承知のとおり、戦後の少年非行の推移をみますと、昭和二十六年をピークとする第一波、三十九年をピークとする第二波、そして昭和四十年代後半から始まった第三波という具合に大きな増減がみられています。第三波の非行は依然増加を続け、昨年は戦後最悪の記録となりました。

この少年非行の増勢の中で、特に注目されますのが、いわゆる「遊び型非行」の急増です。

では、「遊び型非行」とはどんな非行なのか、別に定義があるわけではありませんが、「犯行の手段が容易で、しかも動機が単純な非行」といわれ、その典型的な非行が万引と自転車やオートバイ等を盗む乗物盗です。

ちなみに、全国における遊び型非行の実態をみますと、十年前の昭和四十五年に遊び型非行で補導された少年が三万五千人だったものが、昭和五十五年は十万人と十年間で二・八倍となり、刑法犯少年の六割強を占めております。

この傾向は、熊本県の場合も同様で、別表に見られるように、刑法犯少年は、昭和五十五年から再び増加の傾向をみ、特に成人を含めた刑法犯罪で検挙された総人員の中に占める少年の割合も、遂にその過半数を上回っています。

また、遊び型非行といわれる万引と乗物盗も千人を超え、刑法犯少年の五割以上を占めております。ただ、万引をした少年について店舗から警察へ通報されなかったり、自転車を盗まれても警察へ届出がなされないなどのため、その暗数はこの表に書かれている数字の数倍はあるといわれており、深刻な状況にあるといえます。

また、オートバイ盗は年々増加を続けており、昭和四十九年の一八五台を一〇〇として、昭和五十六年は三九二台とその指数も二・一・九と激増しており、最近の少年が異常なまでにオートバイを含めた車に興味を抱いていることがうかがわれます。

このような遊び型非行の増加の背景には、スーパーマーケットの出現や自転車、オートバイ等の保